

異文化と比較して初めて日本を理解することができる

カナダに渡航する前、カナダ留学でなにを学びたいかというレポートでは色々な経験や体験をしたいと書き、コミュニケーションや看護、医療制度の違いを学びたいと書いた。実際にカナダに短期留学してみて、私は文化の違いや病院見学などに行った際に聞かせていただいた医療制度について調べてみた。

1. 実際にカナダに滞在する

前回のレポートでは色々な経験や体験を行いたいと書いた。その上でこの3週間でカナダに行き、ホームステイをしながら公共機関を使って大学に通学し、授業を受けるというカナダに合わせた日常生活を体験するというだけでも大きな経験となった。文化も言語も



生活環境も異なり、ストレスがかかる環境に身を置くことでカナダの良さ、そして日本の良さを改めて確認することができた。

勉強の面では授業がすべて英語で先生に日本語が通じないという環境で行ったためこの3週間は大きなストレスだった。しかし授業は内容が難し所が多々あったがとても楽

しく取り組めた。自分の中で今まで体験したことのないものだったので良い経験ができたと思う。また、日本ではネイティブな発音に抵抗を感じていたが、ネイティブでないと通じない環境にいったことでその抵抗も少なくなった。

カナダの街並みは日本とはまるで違い、国土の違いにより日本は集合住宅などの建物が密集していて窮屈に見えて人口密度が多いのに対してカナダは広々とした環境で人口密度も多くなく、広々としてとても過ごしやすい。緑も多く、道路も広く作られていて安心して街を歩けた印象だった。また、住宅街では電柱があまり立っていないので空を見たときに日本とはまた違った景色に見えた。

食事では、日本でお弁当という一工夫されてるイメージがあるがカナダではそれに比べ、タッパーに簡単なおかずとホストファミリーがフィリピン人ということもあり、ライスが入っているものだった。周りの人のお弁当を見ても、どちらかという軽食という印象を受けた。日本ではあまり考えられないようなお弁当だったが足りない場合は自分で学食などを買い足していた。しかし日本ではコンビニなどで当たり前にあるおにぎりやパンが売っていなかったので困ることがあった。またコンビニ自体も少ない印象を受けた。レストランなどはピザやハンバーガーなどのジャンクフードのお店やカフェが多く



見える。そのような環境で生活していて炭水化物の過剰摂取のため、カナダ人は肥満な人が多かった。

コミュニケーションという点では多文化主義が根底にある。つまり、人種が違って、文化や歴史を認め合って多様性を尊重して共生する文化がカナダを支えているのだ。そのような多元主義が浸透していて、ホームステイ先は、とても親切で留学生である日本人に偏見を感じることもなく受け入れてくれて、優しく関わってくれた。日本では人種が違うだけで、その国の無知により対応に困ったり、気持ちを引いてしまうリアクションをしてしまう。日本では国際化を叫びながらもカナダのような多文化主義の考え方が浸透してい



ない。カナダのように多元性や多様性を尊重する文化を日本は持つべきであろう。そのためにも海外生活を体験、もしくは歴史や文化を学ぶことによって、その人種について客観的判断をせず主観的に見ることも重要であると学んだ。

今回の留学ではアクティビティとして、観光にも多

く行った。大迫力のナイアガラの滝や綺麗なトロントの街を歩いたり、ワイン工場に行きカナダのような地域でしか作れないアイスワインを試飲したりして日本には体験できないような事を多くした。個人的にはナイアガラの滝は楽しみにしていたので、実際の姿を見ることができて、自然の怖さや偉大さを感じることができた。また、ここに来たことにより、世界の色々な場所をもっと観たいと思った。

2. 医療制度について

色々な医療施設に伺い、話を聞かせていただいた。まず、カナダの病院は非営利団体である政府しか開くことが出来ないという。株式会社などの営利組織は病院を運営することが許されていない。しかし経営は政府が行う訳ではなく病院ごと医療経営の専門家がいて経営に携わっている。政府は補助金や助成金を病院にある一定程度支払うが、病院経営は自己責任が基本となっている。そのため病院の中の共有スペースではカフェやコンビニなどを誘致していて、それらの会社などから支払われる家賃を得ることによって経営の一助としている。日本でもカフェなどを設けることで外来待ちの時間つぶしや入院患者に対して



て入院という非日常から日常に少しでも取り戻す働きかけの1つとして活用したりしているので、特に外来などの待ち時間の長いカナダでは必要なものだと感じた。

医療制度はメディケアと呼ばれる国民皆保険制度を採用しており、原則、患者の自己負担が一切なく、全てを税金で公的に負担している。但し歯科診療やリハビリ、処方箋などは有料となっている。ではなぜ自己負担額がないの

か？それは消費税が関係している。カナダの消費税は州によって異なるが15%と高く、それにより自己負担額をなくしている。日本も同じように国民皆保険制度であるが無料ではなく保険料と窓口の3割負担で行なっている。だが、国境を越えたアメリカとは大きく異なり、カナダと日本は、貧困や所得レベルなど関係なく国民に高度な医療を提供しようという理想を持っている点では似ている。ただし、理想のあるべき姿は立派でも、日本でもカナダでも貧富の格差は拡大しており、現実には厳しい。

さて、カナダの病院は概して待ち時間が長くアクセスが悪い。待ち時間の多さから金銭的に余裕がある富裕層は国境を越えてアメリカの医療機関に行ってしまうこともある。一般的に専門医に見てもらいたいと思っても必ず自分のかかりつけ医に見てもらい、紹介を

得てからその後専門医に診てもらおう形となっている。そして、そのかかりつけ医となる家庭医も新規の患者を制限し、1日の診察を制限しているため予約が数週間先ということも起きている。また、救急外来では命に危険があると判断された場合には早急に治療が開始されるが、緊急性がないと判断された場合には後回しにするシステムが徹底されている。私は地域における病院の少なさと回転率の悪さを感じた。予約の数と待ち時間が伴っていない場合、それは緊急時に対応する余裕をなくしてしまっているのではないか。この余裕になさは出産や入院などの在院日数の話を聞いた時にも感じた。平均在院日数は、昔は約20日だったにもかかわらず今は5~10日、出産に関しては子供を産み終わってから数時間から1日で退院させられるという。

この短さは入院日数平均30日の日本ではまず考えられないシステムである。日本では治療からリハビリ行い再発防止に務めているが、カナダではすぐに退院させられてしまうため再発率の高さが問題点ということを幾度となく聞いた。それならば個人個人で日数を増やしてしまえばいいという意見もだが延泊料金が高く、半強制的に退院させられてしまう。したがって、カナダは早期に退院した患者を地域でケアする訪問看護に並々ななら



ぬ力が注がれている。病院は再入院防止を働きかけて新しい入院患者にベストの治療を行い、退院後には、訪問看護で在宅医療を多職種が連携して提供する。このように医師、看護師、栄養士、薬剤師、リハビリテーション、ケースワーカーなど

他職種連携を行っている点はとても良いと感じた。他職種関係という点では、今までは科によって病院の場所が分かれていたが今では1つの病院にまとめる形になってきているので、今後、他職種関係がより簡単に行えて良いと感じた。ちなみにブロック大学看護学科では、教室に多職種の資格を目指す学生が集まり、他職種連携を研究している教授のリーダーシップのもと、他職種連携が授業でも行われていることを知って驚いた。

上に書いた在院日数の短さの理由の1つとして病床数の少なさがある。カナダは感染症対策を含め、個室が多く、妊婦に至っては那一室で入院から出産までを行う。個室が多いことは個人の日常を取り戻す上でもとても良いが、その分ベッド数は少なくなってしまう。ベッドが少ないことに対して、入退院の回転を上げなければならないので自ずと在院日数が短くなってしまふ。それなら政府の補助金で買えばいいが、医療費全額負担にしているためベッドにかけるお金が回らないという難しい話聞かせていただいた。

これまではマイナスな話ばかりになってしまっていたが、いい所もあった。それは病院

に患者と直接関わらないチームがあることだ。何をするかというと退院していく患者にアンケートを取りサービスの評価をしてもらう。紙にはいくつかの質問項目がある。例は以下のようなものである。

- ✓ あなたはこの病院を知り合いに紹介できるか？
- ✓ インフォームドコンセントはどうだったか？
- ✓ ナースコールを押した時の対応はどうだったか？
- ✓ 退院後のプラン説明はどうだったか？

などがある。

この中に1つでもマイナスな答えが出た場合はその質問に該当するチームのマネージャーに本人の所に行き、24時間以内に解決させるという。なぜこんなことをするかというと、1つは政府が患者のための病院か医療調査をしにきた時に再指導にならないための予防として行なっている。もう1つはビジネスのような話になってしまうが、1人にマイナスな印象を持たれてしまうと口コミによってその人のコミュニティに広がってしまい経営にも影響ができてしまうからだ

このメカニズムとても良いと感じた。患者により良い医療を提供するために意見を受け止めて日々成長していくと思うので日本でも積極的に取り入れるべきものだと思う。

患者と医療従事者の関係性を表すこのポスターはそのアンケートの働きを含め患者を同じチームとして受け入れ同じ目標に向かっていく形づくりができているんだと感じた。

3.まとめ

今回の短期留学で色々な経験と体験、そして貴重な話を聞くことができよかった。比較して初めて分かるものが医療だ。私の医療制度に関する知識はまだまだ足りないが、日本の医療制度や看護制度が当たり前ではなく、たとえばカナダの医療制度、看護制度と比較してみて、初めて日本の良さ、悪さ、先進的な点、後進的な点などの一端を肌で触れることができたのは大きな収穫だった。今後勉強していく中で取り入れられるものは取り入れていくことによって、より良い学びができると思う。引率いただいた松下先生、有難うございました。